

ふるさと魅力再発見と安全・安心な地域活性化調査

徳島文理大学文学部文化財学科
学科長・教授 古田 昇

1 はじめに

(1) 調査研究の背景～マチに隣接した中・山間地すべり地のふるさと

面積ベースで徳島県の約3分の2を占める中山間地では、全国と比しても著しい人口減少と高齢化が進んでいるといわれている。こうした地域の村落では、地域社会の維持、村落そのものの存続が将来的に危ぶまれる地域も少なくない。もとより、多くの分野から様々な対策検討の提案がなされてきているが、その地域の特性を自然環境と生活環境の両面から検討した提言はいまだ多くない。

本年度、とくに徳島県の中山間地の中でも大きな割合を占める地すべり地に地立地する村落を対象として、とくしま政策研究センターが所管する「委託調査研究」に、徳島文理大学香川キャンパスの文学部文化財学科が採択された。

そこで、「ふるさと魅力再発見と安全・安心な地域活性化調査」を実施し、自然環境の特性を熟知した地域の人々が数百年にわたって連綿と生活してきた知恵を明らかとし、中山間地ならではの生活様式と持続可能な生活についての英知を地域から再発見・見える化し、地域の人々と共に、これから「村落を元気にする」ために地域を知ることから始めたいと考え、本研究に参画することとなった。

(2) 調査研究の対象・方法

本調査研究では、高齢化と人口減少が続く中山間地の地域を取り上げる。その際、限界集落という定性的・乾燥した枠組みにとらわれることなく、地域の人々が自ら創意工夫をこらしている地域の一つである、三好市池田町西山地区を調査対象として選定した。

三好市の中心集落は、吉野川中流に位置し、四国4県の交通の要衝として栄えた(阿波)池田である。池田市街地は、吉野川南岸に位置し、数面の河岸段丘面にまたがって立地している。これらの段丘は中央構造線(MTL)によって変位をうけており、吉野川に面する北端が最も高い段丘という逆構造をなしている(写真1)。



【写真1】西山から俯瞰した阿波池田市街地



【地図1】西山・洞草の地すべり地指定

一方、吉野川北岸には讃岐山脈がそびえ、その中腹には、多くの地すべり地形が発達している。西山地区は、吉野川に面する讃岐山脈南斜面の中腹に発達する一連の地すべり地のひとつである（地図1：徳島県HPより）。

西山が位置する讃岐山脈の地質は、白亜紀の砂岩・泥岩の互層からなる和泉層群である。三好地区にあっては、地すべり地形は吉野川支流の右岸側に偏在しているといわれている（長谷川など）。西山地区の地すべり地形も、鮎苦谷川の右岸側にあたり、和泉層群の褶曲軸との関連が指摘されている。

さて、三好市西山の村域は、本来、猪ノ鼻峠を含む広大な面積を有している。そのうち、西山、洞草地区は、中心集落の一つであり、地区の自治会に加えて「もっと元気にする会」メンバーにより、多彩な活動が継続して実施されており、一体化した活動がなされている地区である。



【写真2】洞草と西山ー池田新山から



【写真3】西山中心集落

洞草と西山とでは、村落が立地する地すべり面の斜度が大きく異なっている。池田市街地から見上げるとその差は歴然であり、西山では、そのほとんどを麓から展望できるのに比し、洞草はまったく見えない（写真2）。

【参考1】 調査研究活動協力者一覧

<徳島文理大学文学部文化財学科 教職員>

文学部文化財学科 教員

- ・教授 古田 昇 (地理学・環境歴史学・GIS)
- ・教授 中条 義輝 (情報処理・GIS)

文学部文化財学科 学生

- ・大垣 友和 (徳島文理大学香川キャンパス文学部文化財学科 3年：愛媛県)
- ・多田 裕奎 (徳島文理大学香川キャンパス文学部文化財学科 3年：香川県)
- ・村田 裕誠 (徳島文理大学香川キャンパス文学部文化財学科 3年：高知県)
- ・山崎 晨太郎 (徳島文理大学香川キャンパス文学部文化財学科 3年：高知県)
- ・山村 侑里 (徳島文理大学香川キャンパス文学部文化財学科 3年：徳島県)
- ・森 洋介 (徳島文理大学香川キャンパス文学部文化財学科 2年：香川県)
- ・中岡 拓海 (徳島文理大学香川キャンパス文学部文化財学科 2年：高知県)
- ・出田 靖帆 (徳島文理大学香川キャンパス文学部文化財学科 2年：広島県)

<西山をもっと元気にする会>

活動理念「西山のすばらしい自然、資源を生かし、都市との交流を推進し、交流人口の増加、地域の活性化、地域農業の振興と発展に寄与することを目的に様々な活動に取り組んでいる」団体

- ・南 哲夫 (西山をもっと元気にする会会長)
- ・山崎 正 (西山をもっと元気にする会：土無)
- ・新居 大典 (西山をもっと元気にする会事務局：洞草南岡)
- ・中内 岩治 (西山をもっと元気にする会：中内)
- ・川人 隆子！ (西山をもっと元気にする会：岡田)
- ・平田 仁 (西山をもっと元気にする会：洞草岡田)
- ・森脇 理 (西山をもっと元気にする会：本南岡)

<徳島県三好市>

- ・八光 輝久 (三好市地域振興課 集落支援員)
- ・肴倉 由佳 (三好市地域振興課 地域おこし協力隊)
- ・渡邊 みどり (三好市地域振興課 地域おこし協力隊)

<徳島県>

本調査研究統括

- ・森本俊司(県立総合大学校本部主査兼係長【とくしま政策研究センター】研究員)
とくしま農山漁村応援し隊事業統括
- ・藤村健司(農林水産部 農山漁村振興課 主査兼係長(環境・協働担当))

【参考2】 調査研究・協力団体の概要

＜徳島文理大学文学部文化財学科＞

香川キャンパス 文学部文化財学科 考古学、建築史学、史料学、地理学（環境歴史学）の4分野から構成される。本事業には、地理学の実習・演習履修学生を、文化財実習（地理学Ⅰ・Ⅱ）、文化財演習Ⅰ（地理学）の正課の授業の学外実習・演習と位置づけ、西山に複数回訪問の上、調査・記録を行うと共に、学内においてその調査結果を地理情報システム（GIS）を用いた図化作業を共同で実施した。GISにデータ化した情報は、A0版の大型プリンターにより出力し、次回の現地検討会に持参して、地区の人々との懇談に大活躍した。

＜西山をもっと元気にする会＞

活動理念

「西山のすばらしい自然、資源を生かし、都市との交流を推進し、交流人口の増加、地域の活性化、地域農業の振興と発展に寄与することを目的に様々な活動に取り組んでいる」団体

＜とくしまふるさと農林漁村応援し隊＞

徳島県を対象にした、県の農林漁村振興課所管事業。ふるさと協力団体に登録された団体を中心に、営農上の人的協働を促進することにより、地域の実態を域外の人々にも周知でき、直接的には、営農支援となる協働事業。

徳島文理大学も、全学的に包括協定を締結。

＜三好市 集落支援員 三好市地域興し協力隊＞

三好市地域振興課・総務省所管事業。生業の多くが農業・林業であるため、地元・生業双方に精通した職員を配置して、地域と連携して、さまざまな営農支援を中心に活動されている。

2 調査研究活動の概要

(1) 平成27年度の調査地域選定の経緯

平成 27 年度の調査研究を行うに先立ち、まず調査対象地域の選定を行った。

徳島県の中山間地域には、他地域と比較して、地すべり地形が多く、その上に集落・耕地が立地している地区が点在している。総数は、100 以上に及び、個々の集落毎に、立地環境や周辺地域との交通手段などの社会環境が異なるユニークな集落が数多い。また、村落成立以降、数百年にわたってそれぞれの自然環境・社会環境を熟知してきた地域住民によって、家屋、耕地の位置、使われ方等に関する特性がある。

本研究では、かかる徳島県西部地域の特性から、以下のようにモデル集落を選定した。

- 1) 吉野川北岸の、和泉帯地すべり地域に立地する村落
- 2) 地形環境の特性を生かした村落立地である
- 3) 地域のコミュニティが機能しており、調査協力を得られること
- 4) 農業景観が現存し、住居、耕地との関係が明らかなこと

さらに、徳島県では、農林漁村振興課所管の「とくしま農林漁村応援し隊」活動が盛んに実施されており、本研究の代表者である古田は、平成 25 年度に勝浦町においてすだちの収穫作業に参画した。その経緯から、かかる事業との協働が本調査研究においてもきわめて有効であることを経験している。そこで、地域コミュニティに加え、この事業の「ふるさと団体」のひとつである「西山をもっと元気にする会」の紹介をいただくことが可能となった徳島県三好市西山地区を選定した。

(2) 平成 27 年度の調査研究

まず、関係諸機関各位のご尽力により、徳島県農山漁村振興課、「西山をもっと元気にする会」（以下元気にする会）のメンバーと文理大学教員との連絡説明会を開催していただいた。その席上で、御挨拶すると共に、地域に学生とともに訪問して、調査を進めるスケジュールを説明し、協力を頂きたい旨のお願いを申し上げ、快諾を得た。

また、同時に元気にする会のメンバーより、耕地作付け・収穫の実態を知ってもらうために、参加するか、あるいは活動を知ってほしいこととして、以下のような活動の行っている旨の紹介を受けた。

- 1) 毎年、西山の数少ない水田で、外来者を招いた田植え、稲刈りの実施
- 2) そばの種まきと収穫作業の実施（応援し隊の協力を仰ぐ）
- 3) 村落内に多く残る石垣は、以前 1 回調査があったこと

- 4) 遊歩道を順次整備しており、将来的に地域周遊コースとしたいこと
- 5) 様々な果実、樹木、畑作物を植え付け、収穫、一部販売もしている

このうち、上述した様に、農作業の一部を学生にも実体験させることで、地域をより深く理解させることにつながる上、地域の人々との交流も実現することを鑑み、そば収穫作業に参加することとした。

そばの植え付け、収穫については、徳島県のふるさと事業のほか、他大学の学生団体が、自ら種まきと収穫をしている畑があるとご教示を頂いた。しかし、地域住民との共同作業ではないため、これについては、調査対象外とし、あくまで元気にする会の主催事業に参加することにした。

本来ならば、種まきから参加させていただくのであるが、日時が切迫していたため、本年度は、収穫予定日である 11 月上旬に、学生と共に現地訪問し、午前中収穫作業、昼食後、地域の予備調査の計画で実施した。



【写真3】西山をもっと元気にする会メンバー諸氏



【写真4】そば収穫(とくしま農山漁し隊村応援)



【写真5】石臼にてそば挽きを伝授いただく



【写真6】そば殻を取り除く自作器を紹介頂く



【写真7】そば打ち師匠から技の直伝

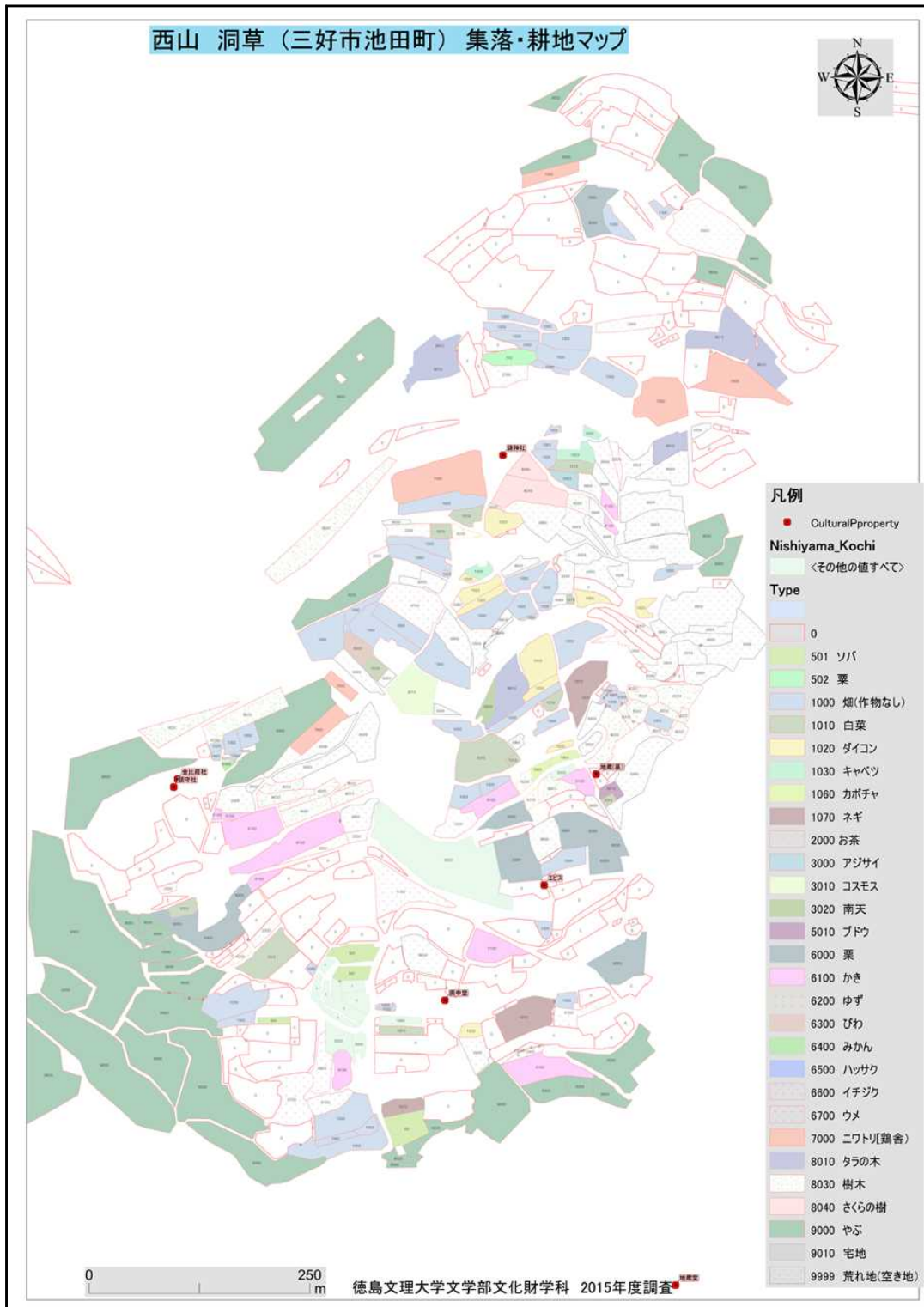


【写真8】匠の教えを実際にやってみる学生

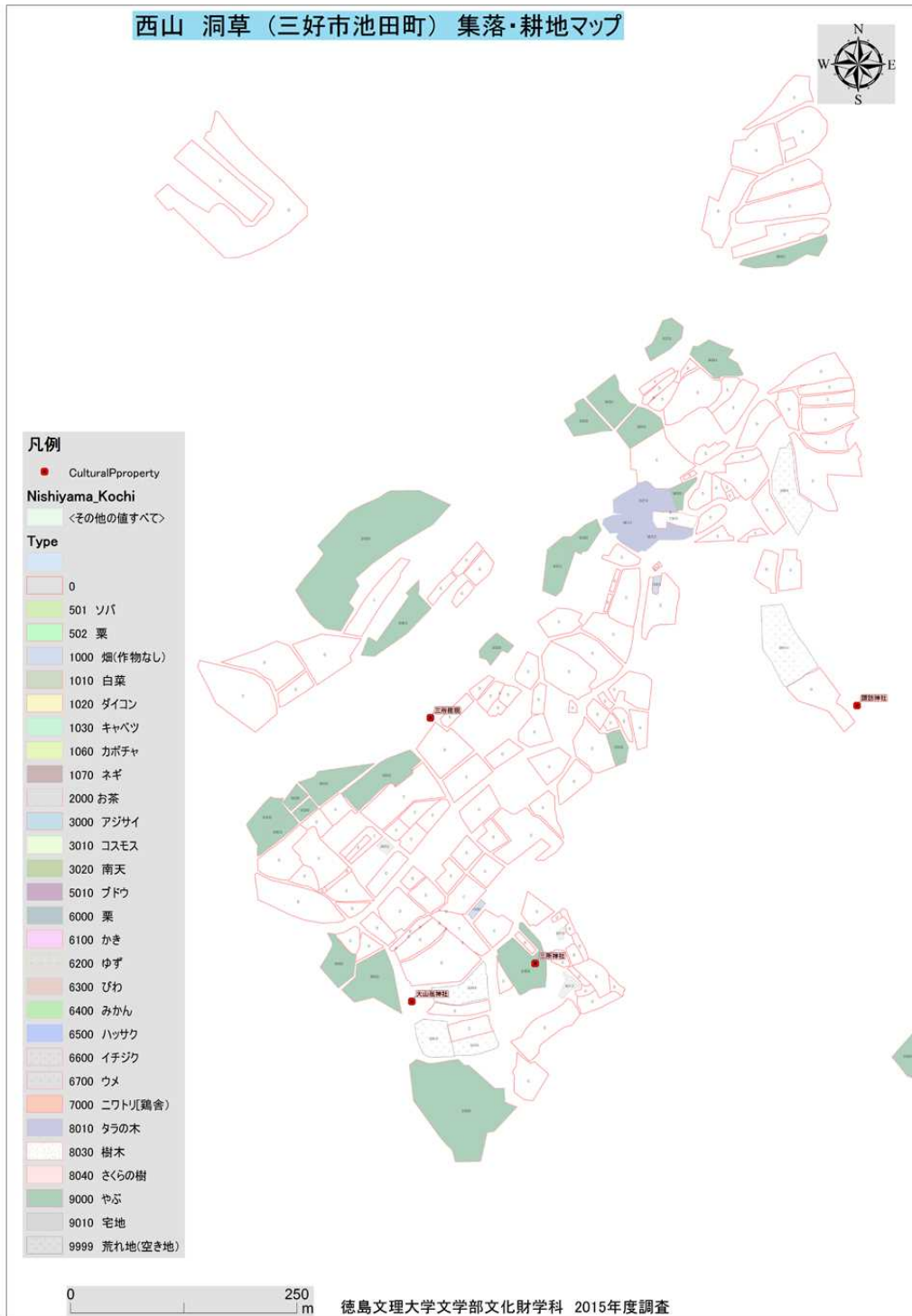
【参考3】平成27年度調査研究活動の経過

- 平成27年6月19日 県の砂防基盤図 DMデータの提供許可
- 平成27年8月3日 徳島県農山漁村振興課へ地元団体紹介の依頼
- 平成27年8月4日 西山地区現地調査（教員）
- 平成27年8月11日 西山地区カウンターパートナーとの現地協議
- 平成27年8月19日 地域活性化調査の現地協議
集落支援員八光氏、徳島県藤村氏、森本氏
西山をもっと元気にする会
- 平成27年9月 徳島県農山漁村振興課へ耕地図の提供依頼
- 平成27年10月6日 徳島県農山村整備課より
とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊協働パートナーで
ある「西山をもっと元気にする会」より、「そばの収穫作
業」の応援依頼の通知。即日応募。
- 平成27年11月1日 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業に参画。
西山地区にて「そばの収穫作業」に学生とともに参加。
- 平成27年12月5日 西山地区 集落・耕地調査
～6日（4班に分かれて家屋、耕地作付け・危険箇所、祭祀など）
そばの石臼引き、殻の選別、そば打ち、ゆでの実演指導を
受ける。前後に、大判地図をもとに、地域の方々から西山
地区のあらましの説明をいただき、調査での不明点を懇談
しながら修正（於：西山構造改善センター）。
- 平成28年2月27日 西山地区構造改善センターにて中間報告会。
「西山をもっと元気にする会」メンバーにより整備中の遊
歩道と展望台を一緒に巡回しつつ、討議。
徳島新聞社が「元気にする会」メンバーの取材に来訪。そ
の要請に応じ、徳島文理大学の学生と「元気にする会」の
メンバーが再び遊歩道を散策、ともにインタビューを受け
る。

(2) 調査研究成果の発信・活用



【地図1】 西山耕地・住宅現地調査マップ - 西山



【地図2】 西山耕地・住宅現地調査マップ - 洞草

2回にわたる現地調査の結果を地図上に記録・入力することで「見える化」し、学生相互で共有するとともに、検討会・説明会に持参して、「元気にする会」地域支援員の全面的なご協力のご指導を頂きながら、修正をおこなってきた。

2月下旬の現地報告会の折には、徳島新聞社の取材を受け、大判地図による学生と地域の人々との交流と検討の様子も記者に公開した。これは、「西山をもつと元気にする会」の活動報道を通じて、本事業の様子も発信される予定である。

このようにして作り上げてきた地図は、地元にはGISのシステムがないため、当面、紙媒体での提供を検討している。A0サイズの大判出力図と、A3～A4版程度のハンディ版のいずれかあるいは双方での提供を考えている。

また、翌年度も「ふるさと農山漁村応援し隊」事業への参画を予定しており、「元気にする会」も歓迎の意向を示していただいている。そこで、何らかの形で本事業を発展的に継続し、地域とのつながりを保持していきたい。

さらに、学界等での成果報告、報告論文の執筆等を行い、利活用の一助としていきたい。

3 調査研究の課題と今後の展開

(1) 調査研究の成果と課題

耕地・集落調査では、住宅地図に記載があっても、実際には留守宅であったり、戸主が代わっていたりしており、学生は調査に苦心した。また、耕地調査では、耕地一筆毎の地図がなく、25000分の1地形図以上の高精細な現行地図が入手できなかった。そのため、旧版図である5000分1国土基本図と、5000分1レベルの県作成の砂防基盤図のDMデータの提供を頂いた。また、耕地については、農林漁村振興課の耕区図が有効であったが、データ作成元(外部団体)の協力が一部得られなかったため、データの提供は受けられず、PDFでの交付となった。そのため、GISを用いてアナログデータを手作業でデジタルポリゴン化し、さらに一筆ごとに作付品目を現地調査していった。

この作業は、数か月に及び、一部学生には相当の負担をかけたが、進んで引き受けてくれ、単調な入力作業を黙々とこなしてくれた。

これらのデータは、2015年度秋のある時期の耕地の現状を表現したものであり、稲刈り後、そばまきなど二毛作を実施している耕地については、実態が必ず

しも再現できていない。この点については、今後の継続調査で修正加筆していくこととしたい。

これらのデータは、GIS(地理情報システム)のポリゴンデータにインプットしており、地域の人々には様々な形で情報提供と、協力を行っていく基図になるといえる。

次に、大学側の事業遂行にかかわる人材育成効果について述べる。本事業には、香川キャンパス文学部文化財学科の2・3年の学生8名が参画した。本年度はふるさと農山漁村協力し隊として、また本事業の現地調査・聞き取り調査に、教員が引率して、学生が直接現地に入って、地域の人々と親しく交流しながら調査が実施できた。そして、地域の実態を知り、課題解決に向けた提案を考え、現地報告会で地域の人々を前に発表する機会をいただいた経験を通して、地域の現状や課題を知るために、自ら考え、調べ、疑問点をただし、考えていくことを深く学ばせていただくことができた。さらに、香川県と徳島県との共通性、地域の個性も同時体験することができた。出身県は、四国全域におよび、普段から他地域の問題も共有している学生たちであったが、今回の調査で、地域調査のあり方と自然環境に応じた数百年間の暮らしを理解する本当の意味と意義を知りえる貴重な経験となった。

一方で、正課の授業に組み込んで調査を実施したため、課外のデータ整理等が一部学生に負担をかけたこと、また、カリキュラム、移動費用等の制約からもっと頻繁に現地を訪問することができなかつたかとの反省点も少なくない。この調査が一過性のものに終わることなく、でき得れば、翌年以降も農業応援し隊事業等を通じて継続性をもたせることができればと考えている。

(2) 今後の展開に向けた方策

時系列的な地域の復原作業に向け、徳島県、三好市、西山地区自治会各位と連携して、様々な空間情報を収集し、GISデータとして図化し、データベースとしていきたい。また、地域では、危険個所や耕地の特性を熟知されている方々が健在であり、その知恵の世代継承、技術継承が急務である。そのため、伝承にとどまる様々な知恵を見える化するために必要な優先順位を提案いただき、引き続き地域を繰り返し訪問することによって、協同を継続していきたいと考えている。

【参考4】協力関係の拡大取り組み

本年度

大学

徳島文理大学 香川キャンパス文学部文化財学科 学生・教員

徳島県

事業主体、

農林漁村振興課

農林漁村振興課

西部県民局

三好市

- ・地域振興課

西山地区

- ・西山をもっと元気にする会 各位
- ・うどん、そば、おにぎり等の炊き出し等で応援いただいた奥様方
- ・調査に協力いただいた、西山地区のすべてのひとびと

翌年度以降

徳島文理大学徳島キャンパスとの連携

(3) 今後の展開～地域と大学との連携に向けた取り組み～

徳島県と香川県所在の学科とはいえ、キャンパスから阿波池田までは車でおおよそ1時間半と、徳島市内からの時間距離と同等あるいは近距離にある。三好地区とは、古くから人的往来がさかんであり、さらに借子牛などの協働もかつては盛んに行われていた。三好市西山地区の旧版地図に記載されている「西山放牧場」は、その牛の飼育場のひとつであった。徳島香川愛媛をつなぐ四国の中心的位置にあたる西山の歴史的経緯を、本事業でさらに発展させることが期待される。徳島文理大学では、文学部文化財学科に加えて、徳島キャンパスの関係学科と連携を調整中であり、西山地区に関係の深い徳島香川の両キャンパスの学生相互の交流、また西山地区の人々との交流を、本事業を契機にして、一層発展させ、地域と大学との連携に向けた取り組みをさらに進めていきたいと考えている。

すでに、現時点で「元気にする会」から、遊歩道周辺の樹齢100年を超える巨木の樹種手特定と、案内板設置に向けた協働作業のオファーがあり、翌年度の新選択学生を交えて、一層交流を加速化していきたいと計画中である。